

何事にも前向きに
 一步を踏み出すと
 道が開く。

学園長
 理事長

小林 素文

【学 歴】

1968年3月 慶応義塾大学 経済学部 卒業
 1971年8月 アイオワ州立大学院 言語学専攻 修士課程 修了

【職 歴】

1972年4月 愛知淑徳高等学校教諭、愛知淑徳短期大学 兼任講師
 1974年4月 愛知淑徳短期大学 講師
 1984年4月 愛知淑徳大学 教授
 1989年4月 愛知淑徳大学 学長(2011年3月まで)
 1991年4月 学校法人 愛知淑徳学園 理事長(現在に至る)
 1996年6月 学校法人 愛知淑徳学園 学園長(現在に至る)



本学園の大学学長、学園長・理事長を歴任されている小林先生。言語学を専門とし、ハワイをフィールドに研究活動に力を注いだ経歴もお持ちです。文学部教授も務め、教えること、学生と共に学び合うことの喜びを実感されました。「私は学生時代、好きだった英語を海外で試したいと考え、ハワイでアルバイトをしました。それがきっかけで言語に興味を覚え言語学を学ぶようになりました。学生・生徒の皆さんも、好きなこと関心を抱いていることには積極的に挑んでください。一步踏み出すと、新たな道が見えてきますから」と小林先生は笑顔で語ります。

大学3年生のとき初めてハワイに渡り、3カ月間パイナップルピッカーとして住み込みアルバイトをしました。ところが、現地のパイナップルピッカーたちの英語が全く分かりません。それは、後で分かったことですが、独特の方言(ピジン英語)だったからです。

経済学部の学生でしたが、英語の多様性に興味をわき、留学を決意し、1年間の準備期間を経て、米国の大学院に入学し、言語学を学び始めました。

大学教員となつてからは、講義やゼミで〈標準英語の仕組み〉それから逸脱する〈様々な英語〉について学生たちとともに学び、研究ではハワイの日系人のことばとアイデンティティをテーマに、テープレコーダーをかかえ毎年ハワイ通いをしました。

43歳で学長、45歳で理事長になつてから

はその職に専念し、授業も研究も遠ざかりましたが、65歳で学長を辞したことを機に、講義を一コマもたせてもらいました。長年のハワイ通いで感じていたことを若い世代に伝えたかったからです。

講義を再開してから訪れるハワイは、淑徳魂の「陰徳」に通じる「アロハスピリッツ〈見返りを求めない思いやりの精神〉」の源泉を考えながらハワイ王朝の足跡をたどつたりして、若い頃とは違った興味と関心がわいてきました。

言語学とハワイ通いで学んだことは「言語や人や文化はそれぞれ違うが根っこは同じ」です。大学の理念「違いを共に生きる」にも通じるそんなことをこれからも伝えていければと思っています。

小林先生の主要著書・論文

- 「ハワイの英語とアメリカナイゼーション」表現学論叢(1980年7月) 中部日本教育文化会
- 「世界の中の英語」英語教育(1988年8月号)大修館書店
- 「ハワイの英語・ピジン・クリオールからダキネトクへ」英語教育(1997年1月号)大修館書店
- 「様々な英語」母語として民族語として(1988年11月)研究社出版
- 「複合民族社会と言語問題」(1989年10月)大修館書店
- 「ハワイ物語」(2013年9月)東京図書出版
- 「カメハメハ大王」今へとつながる英傑の軌跡(2019年5月)風媒社

